

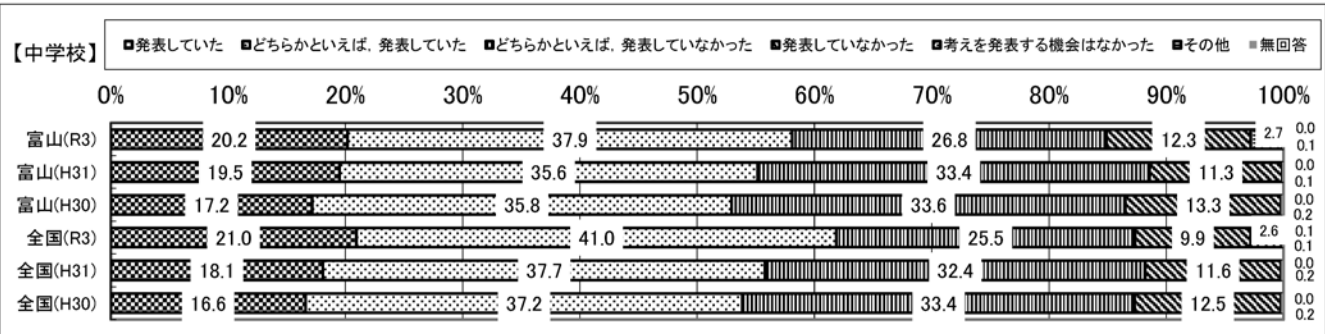
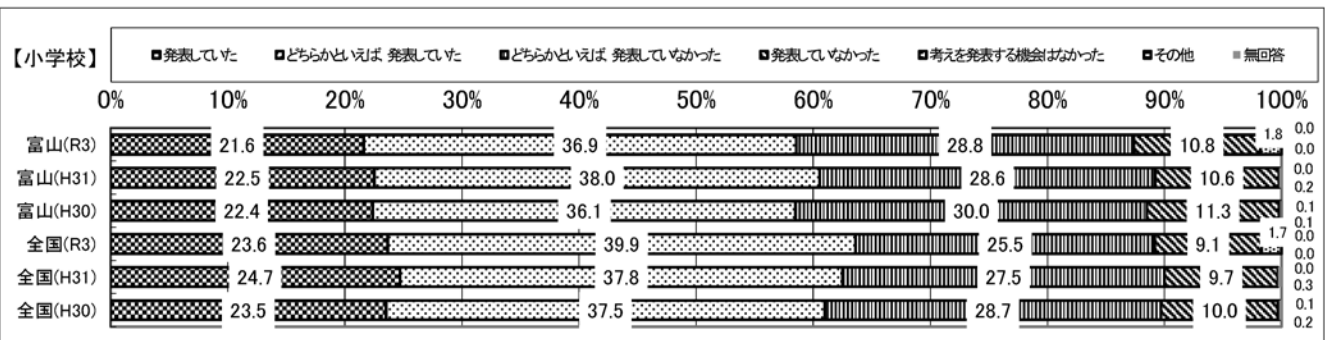
IV 児童・生徒質問紙調査結果の概要と分析

1 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

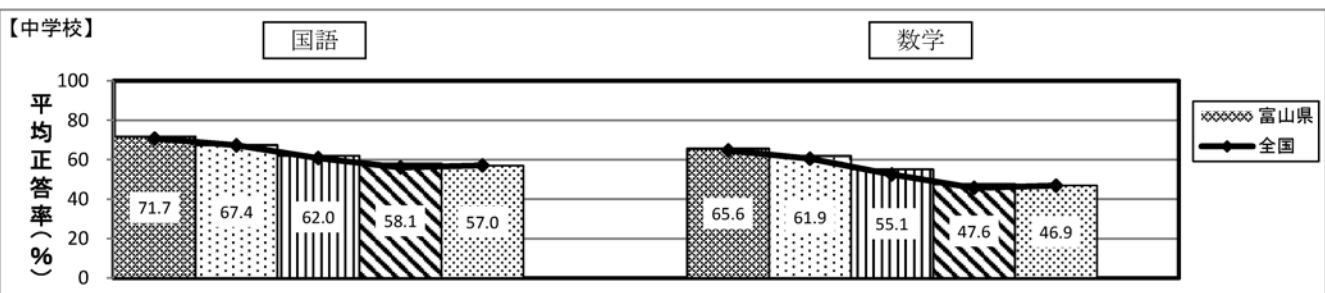
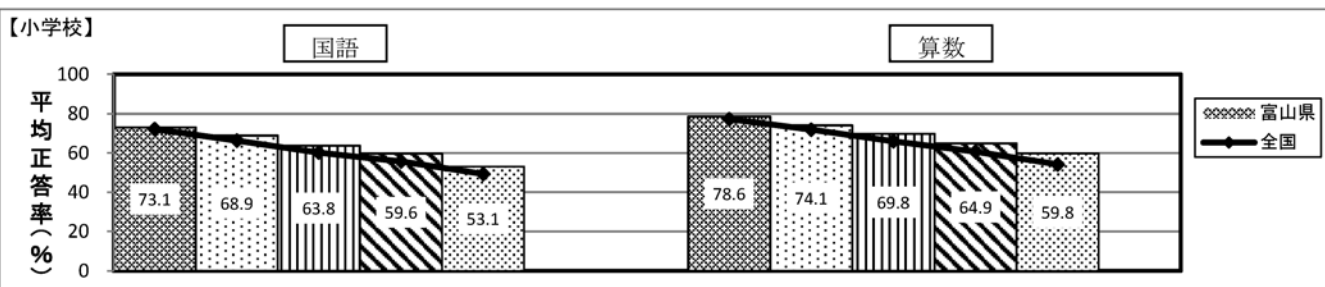
- (1) 5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか（質問小中32）

・「発表していた」「どちらかといえば、発表していた」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて低い。

◎自分の考えが伝わるように発表するには、相手や目的を意識して表現を工夫することが大切である。その際、目的や意図に応じて、資料の順番を変えたり、資料を提示しながら話す仕方について検討したりすることが求められる。また、自分の考えを整理して発表する機会を積極的に取り入れていくことが大切である。



児童・生徒質問紙調査結果と平均正答率とのクロス集計（令和3年度）

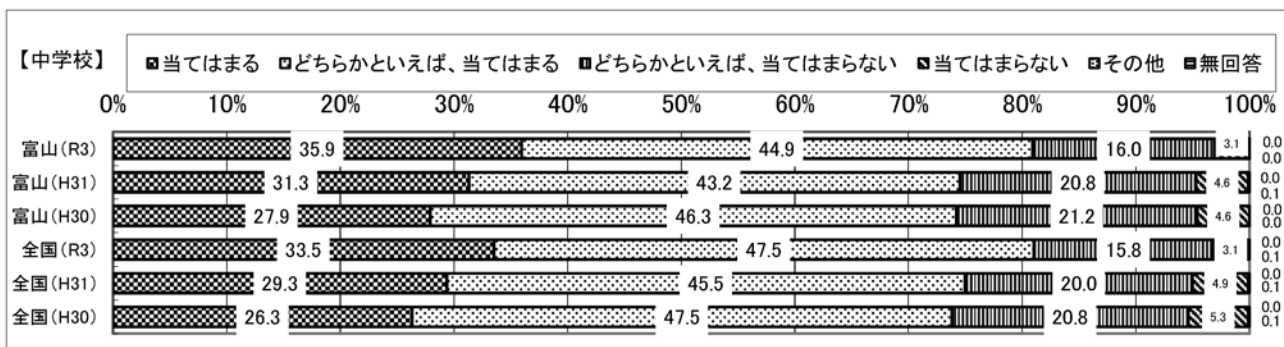
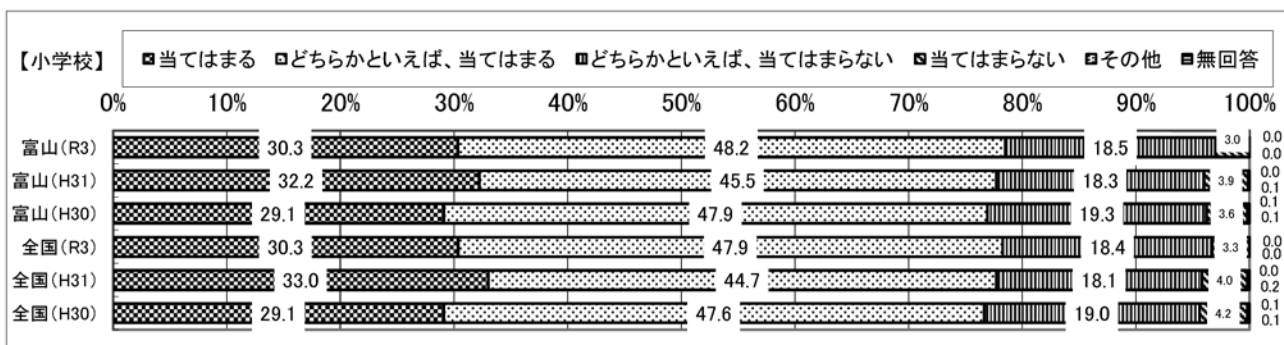


当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない
 話し合う活動を行っていない

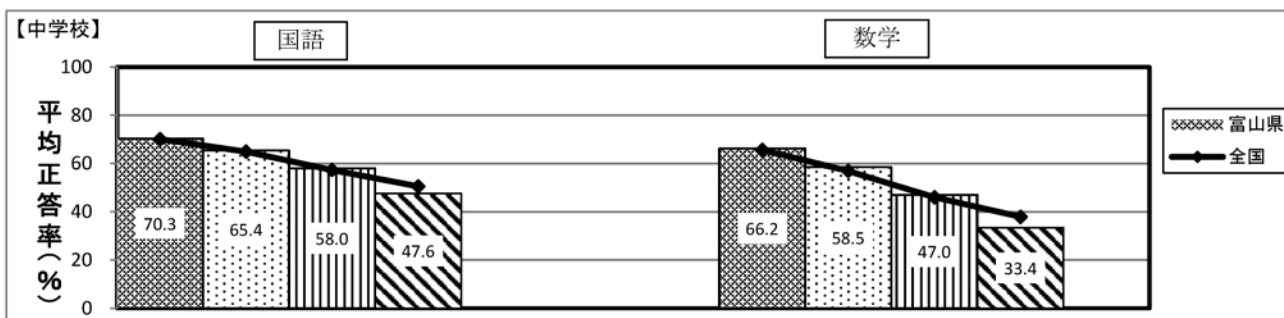
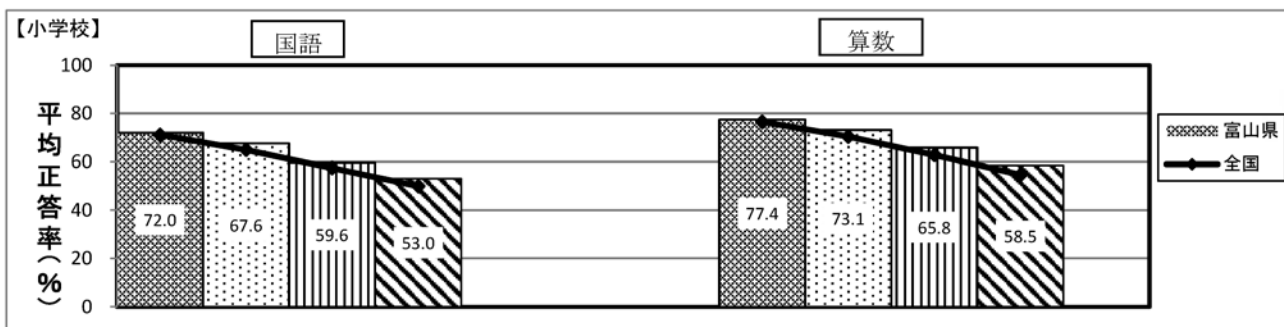
(2) 5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか（質問小中33）

・「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、平成31年度と比べて小学校では0.8ポイント、中学校では6.3ポイント増加している。

◎児童生徒が見通しをもって粘り強く取り組み、自分の学習活動を振り返って次につなげるための活動が充実してきていると思われる。今後も、児童生徒が自分の生活体験や興味・関心を基に学習課題を選択する機会を設けるなどの導入時における意欲付けに加え、学習中や学習後にも、児童生徒の学ぶ意欲を高めることが大切である。



児童・生徒質問紙調査結果と平均正答率とのクロス集計(令和3年度)

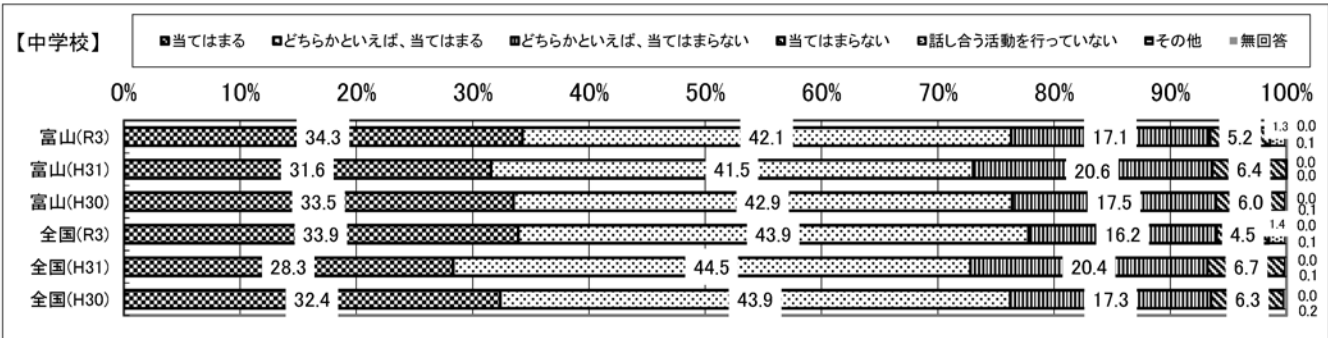
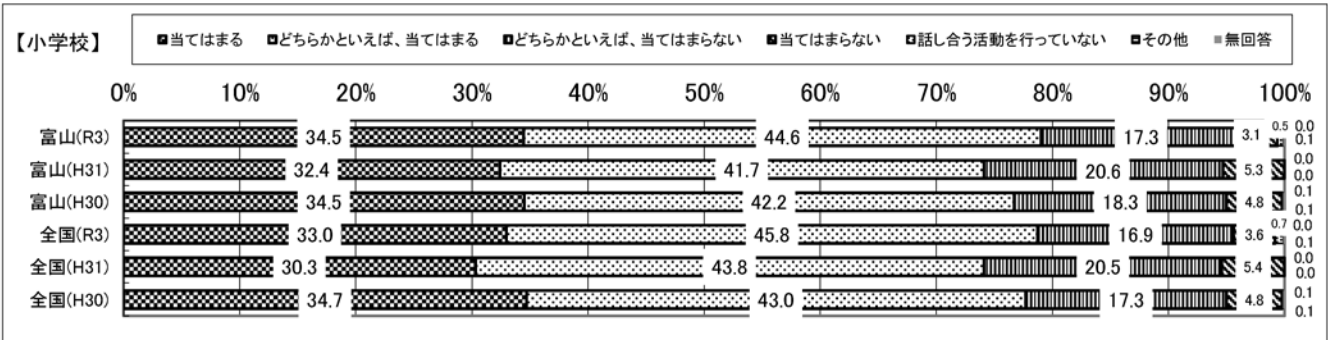


■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

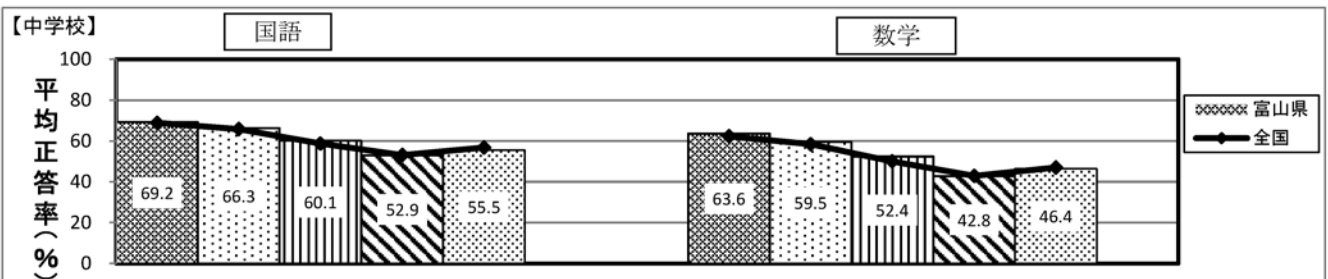
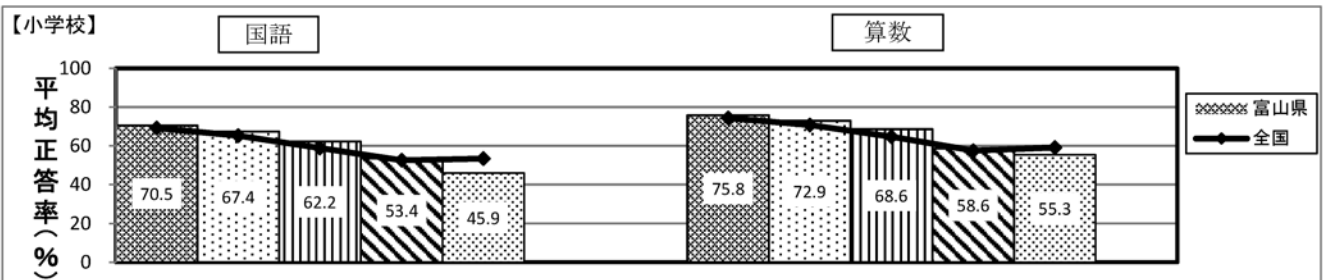
(3) 学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか（質問小中 37）

・「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、平成31年度より小学校で5.0ポイント、中学校で3.3ポイント増加している。

◎これからも一層、子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める視点に立った授業改善が大切である。



児童・生徒質問紙調査結果と平均正答率とのクロス集計（令和3年度）

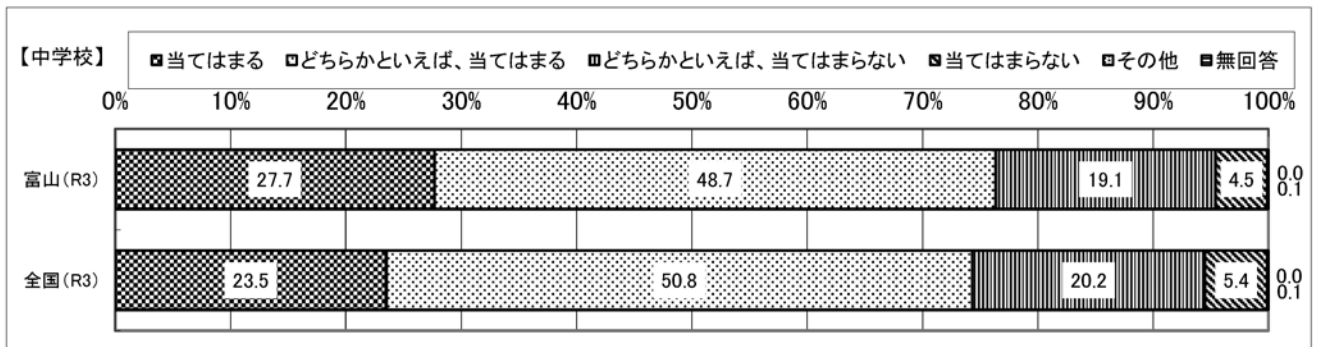
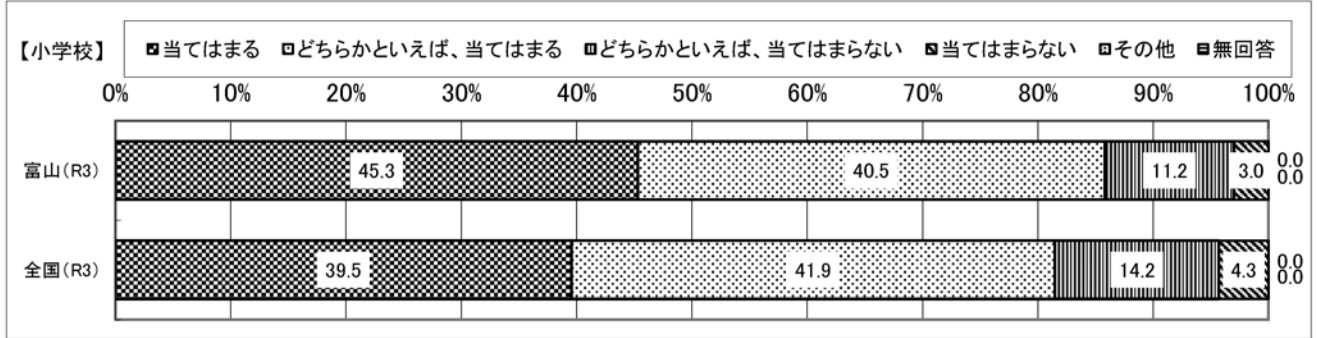


当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない
 話し合う活動を行っていない

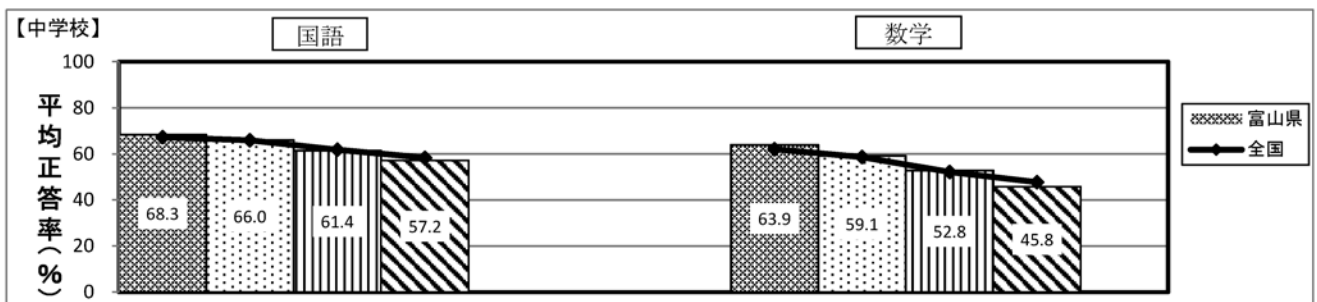
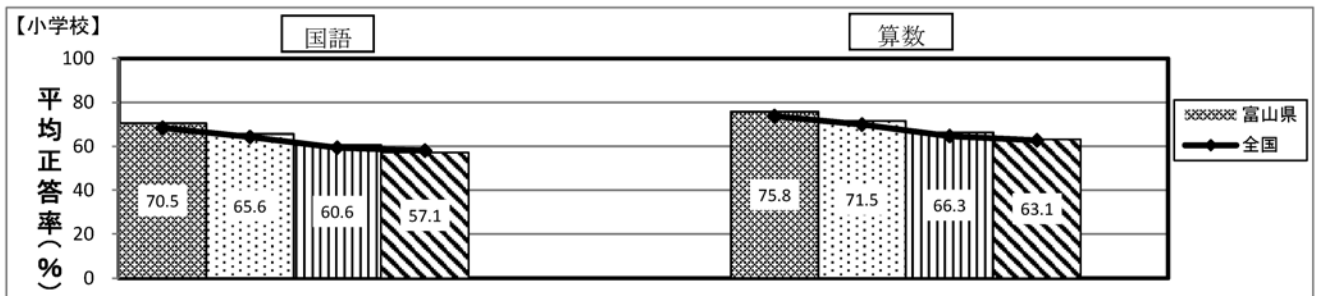
(4) 5年生まで(1、2年生のとき)に受けた授業では、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか(質問小中35)

・「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学校では全国と比べて高く、中学校では全国と比べてやや高い。

◎児童生徒一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うこと等、個に応じた指導を一層充実させることが大切である。



児童・生徒質問紙調査結果と平均正答率とのクロス集計(令和3年度)



当てはまる

 どちらかといえば、当てはまる

 どちらかといえば、当てはまらない

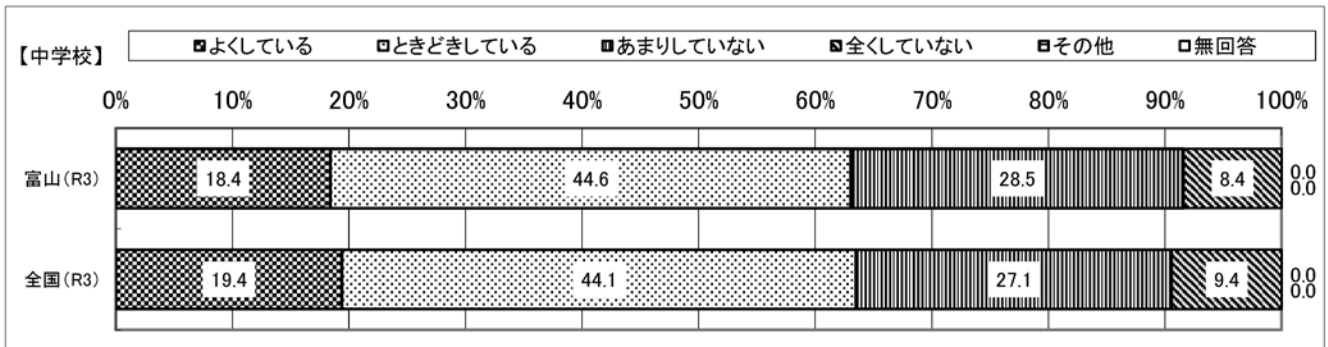
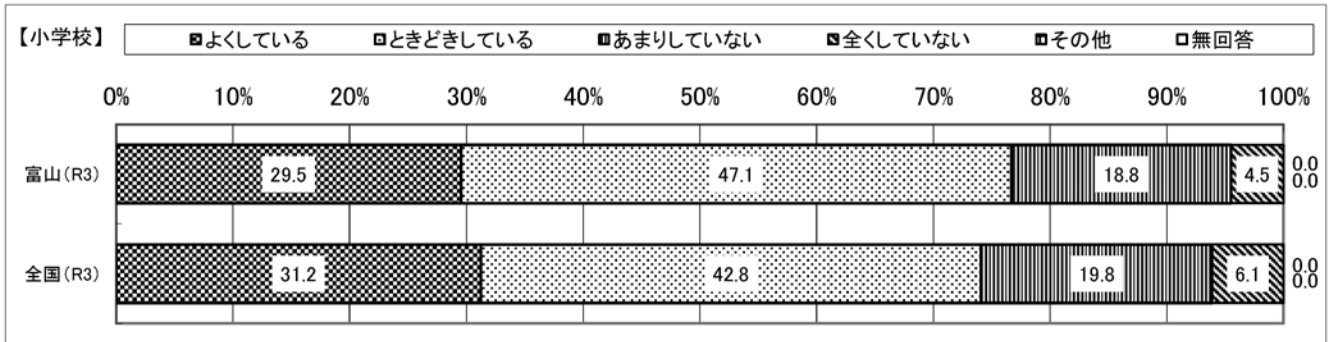
 当てはまらない

2 学習習慣、基本的な生活習慣等

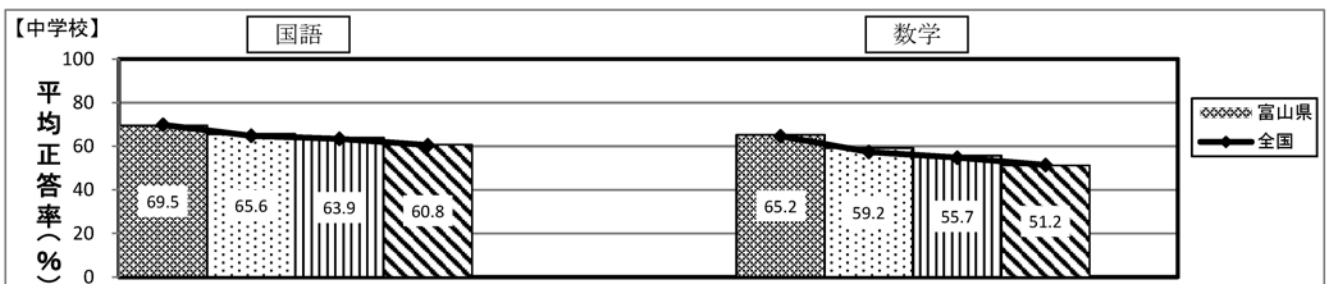
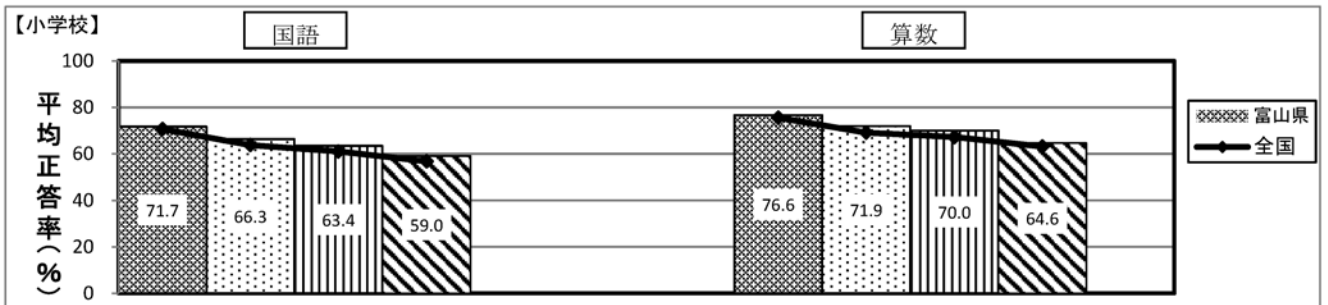
(1) 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含みます)(質問小中17)

・「よくしている」「ときどきしている」と回答した児童生徒の割合は、小学校では全国と比べてやや高く、中学校では全国と同程度である。

◎保護者用リーフレット「家庭学習のすすめ」等を活用し、家庭との連携を図りながら、児童生徒が家庭での時間を自分で計画を立てて過ごすことができるような力を育てることが大切である。



児童・生徒質問紙調査結果と平均正答率とのクロス集計(令和3年度)



よくしている

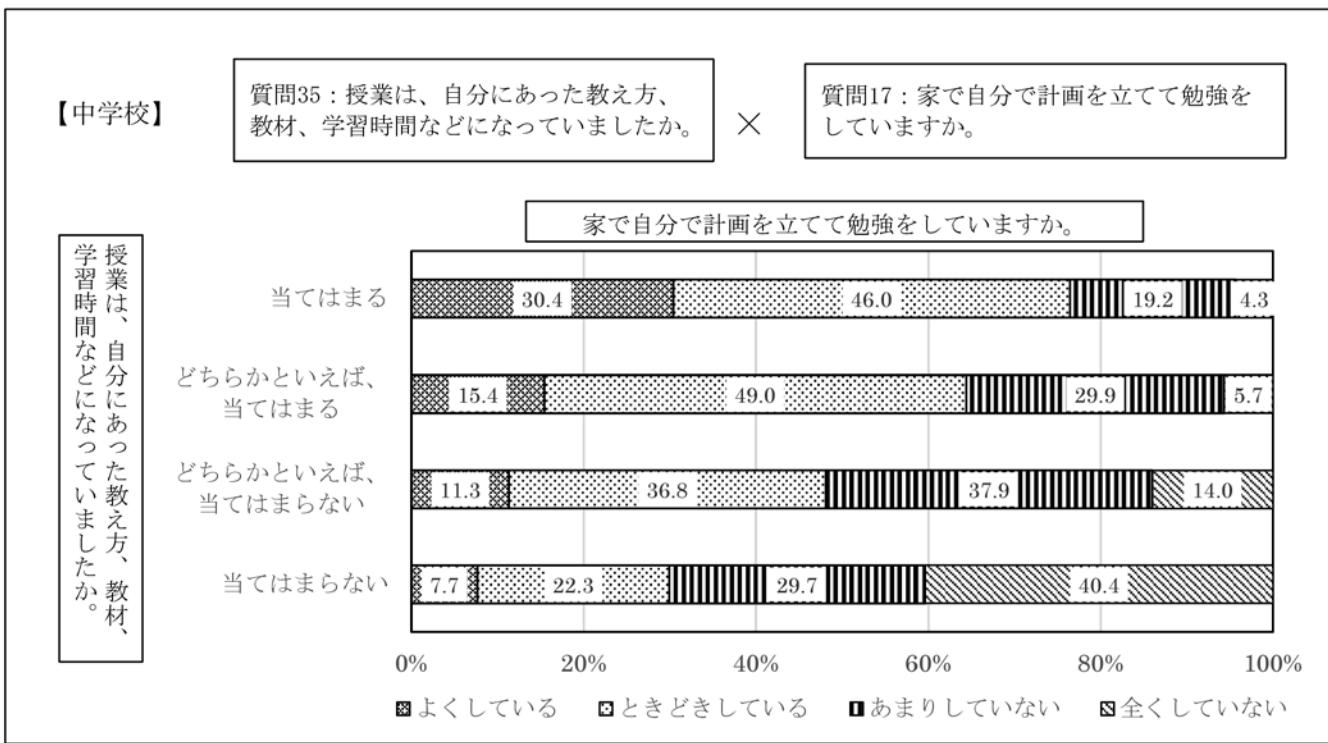
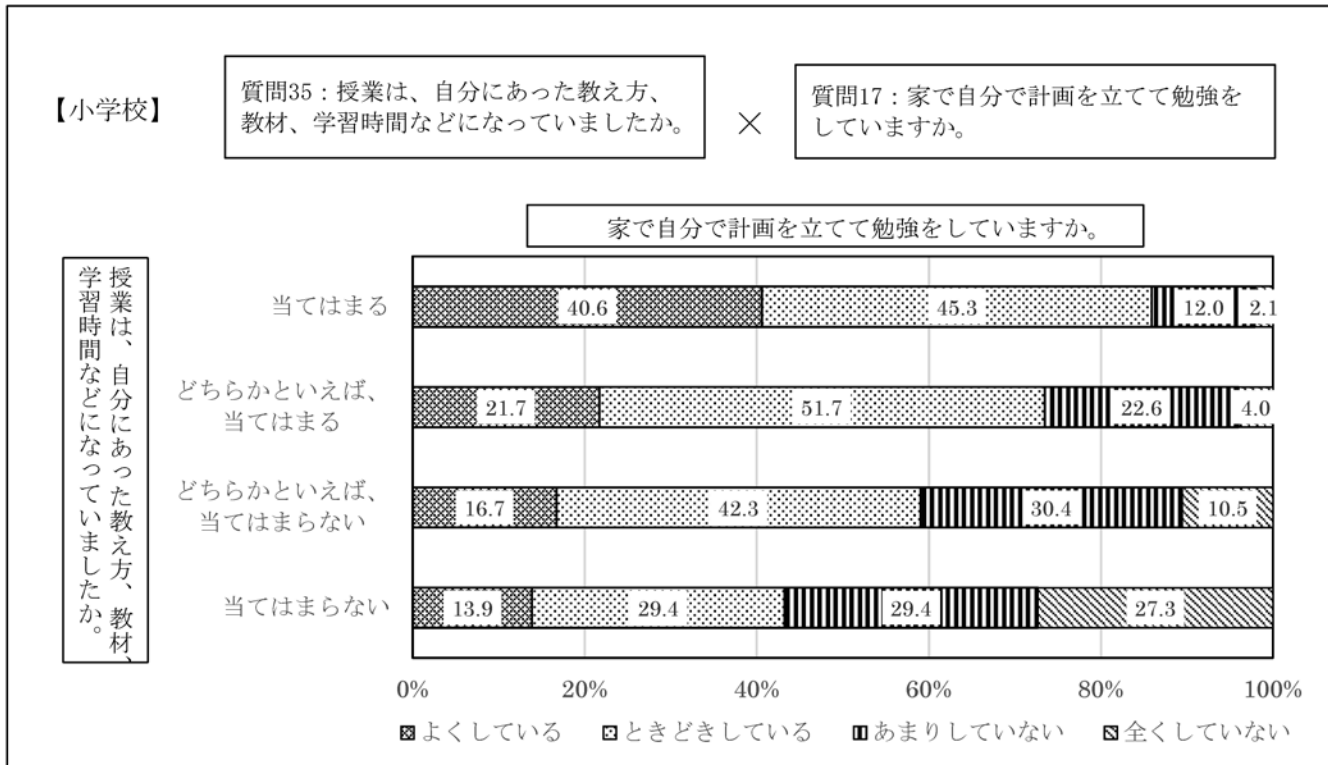
 ときどきしている

 あまりしていない

 全くしていない

質問 35（授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか）と質問 17（家で自分で計画を立てて勉強をしていますか）のクロス集計

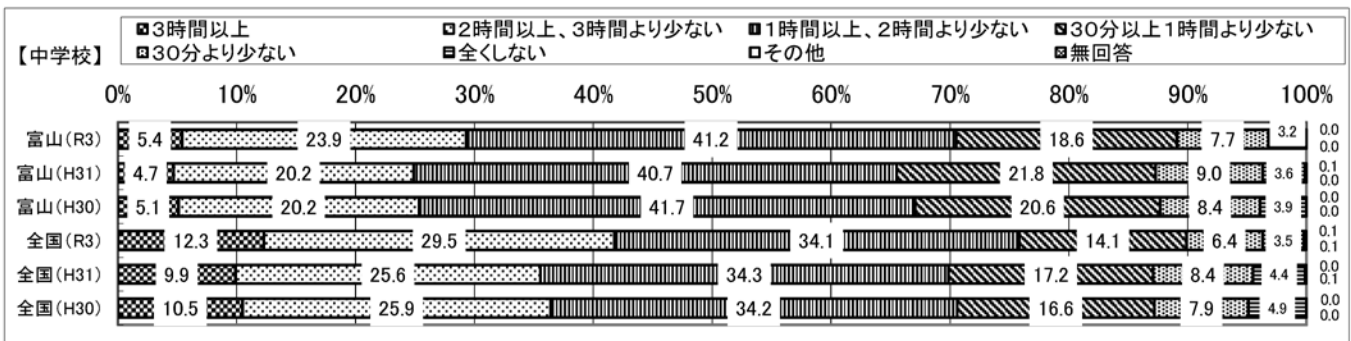
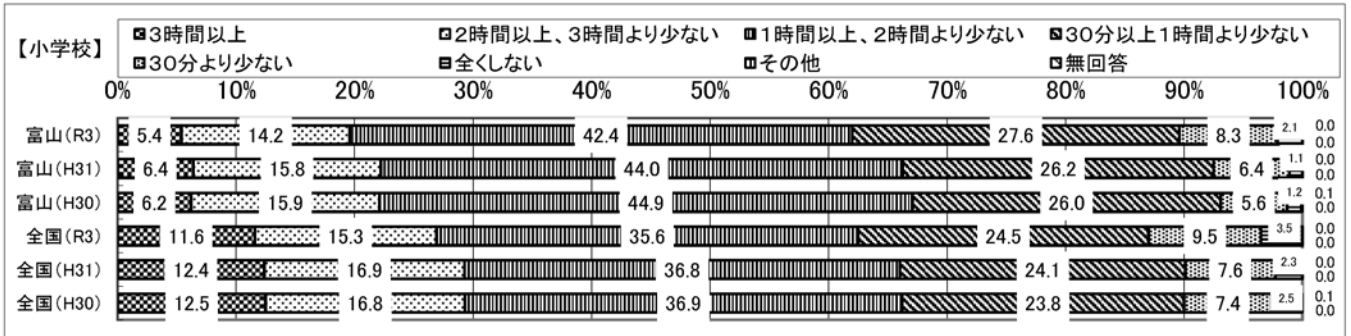
・「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた」と肯定的に回答した児童生徒ほど「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した割合が高い傾向が見られた。
 ◎主体的に学習に取り組む児童生徒の育成に向けては、児童生徒が切実感をもつ学習課題を設定したり、児童生徒の思考に即して授業展開を工夫したりするなどの授業改善をしていくことが大切である。



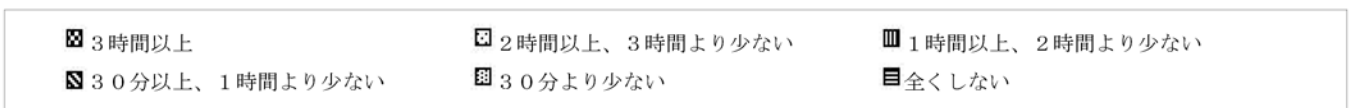
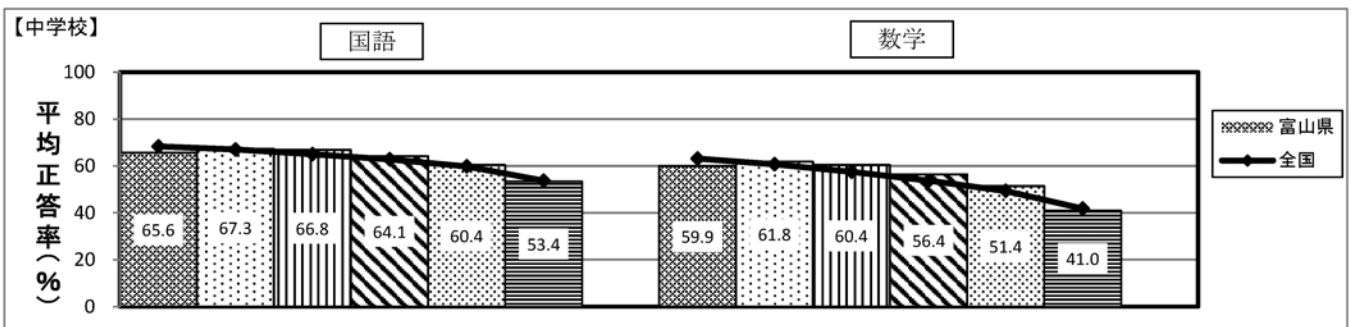
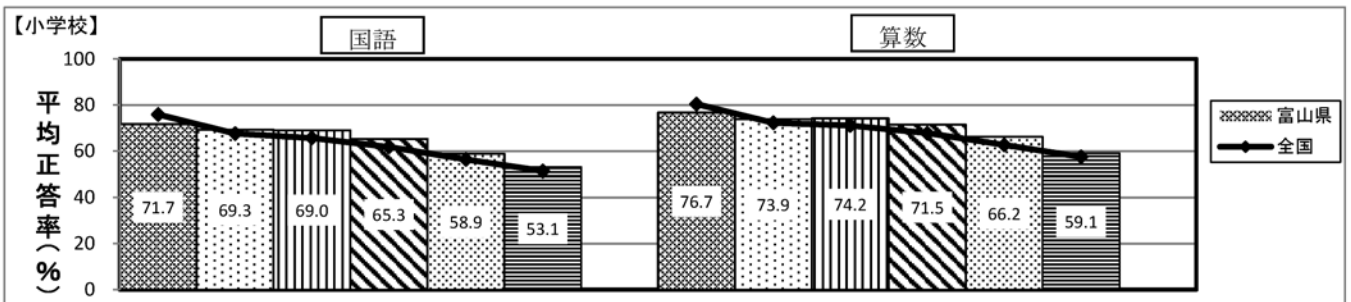
(2) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含まれます）（質問小中18）

・「1時間以上」と回答した児童の割合は、全国と同程度であるが、平成31年度より小学校は4.2ポイント減少している。中学校では、平成31年度より4.9ポイント増加しているが、全国と比べて5.4ポイント低く、「2時間以上」の生徒の割合は、全国と比べて12.5ポイント低い。

◎各学校は、児童生徒に対して、宿題や予習・復習など家庭での学習課題を適切に課したり、発達の段階に応じた学習計画の立て方や学び方を促したりするなどの指導をより一層充実させていく必要がある。

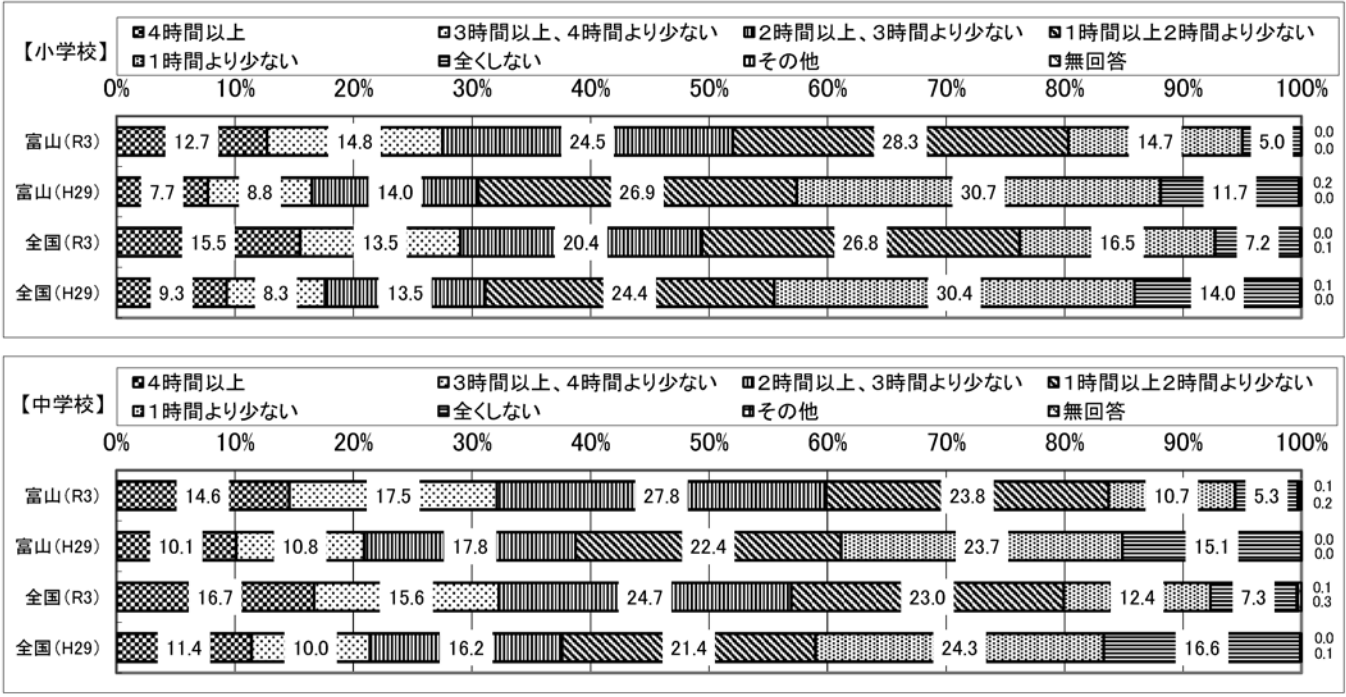


児童・生徒質問紙調査結果と平均正答率とのクロス集計(令和3年度)

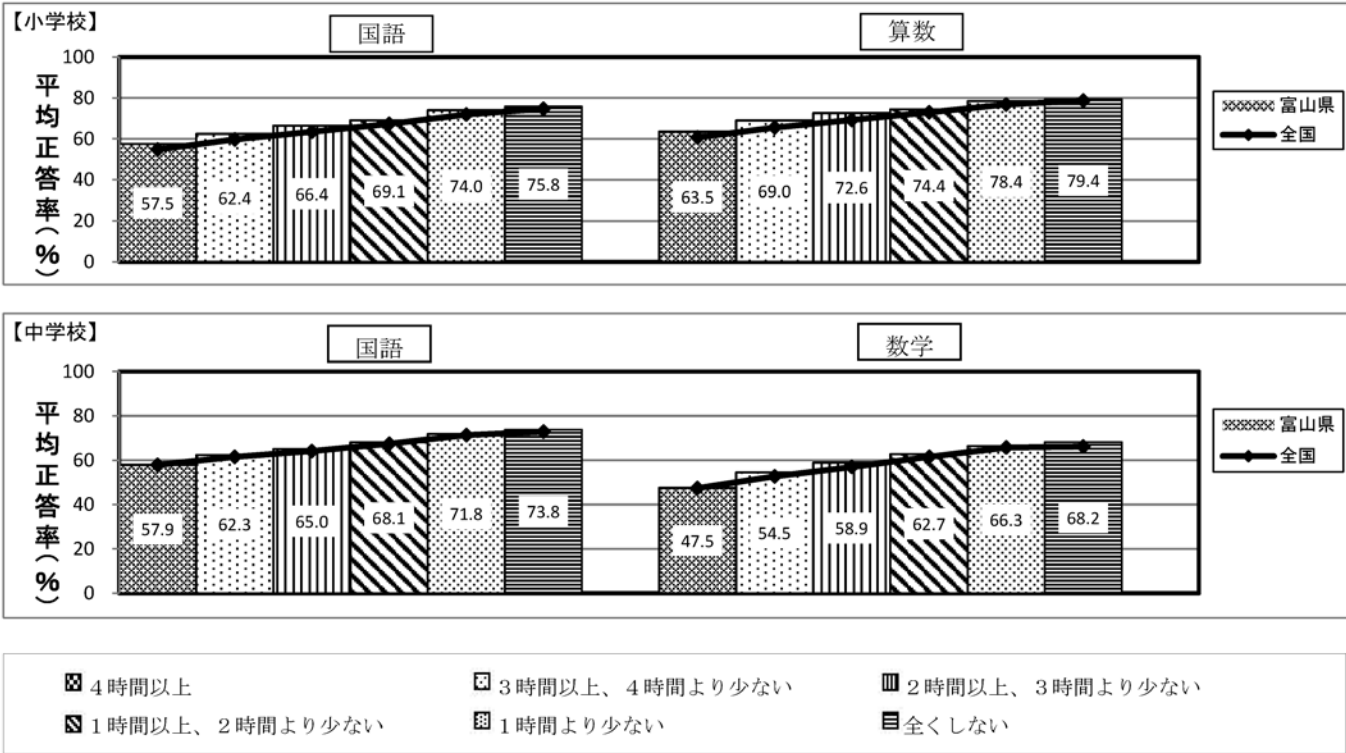


(3) 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます）をしますか（質問小中5）

・1日当たりのゲーム等の使用時間については、「1時間以上」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高く、平成29年度より小学校で22.9ポイント、中学校で22.6ポイント増加している。
 ◎児童生徒の家庭での過ごし方について把握し、児童生徒が自らの生活時間を考える場を設ける必要がある。生活時間について指導する際には、よりよい生活をするよさや意義に触れ、生活を改善していこうとする気持ちを養うことが大切である。
 ※H30、H31は、この質問はなし。

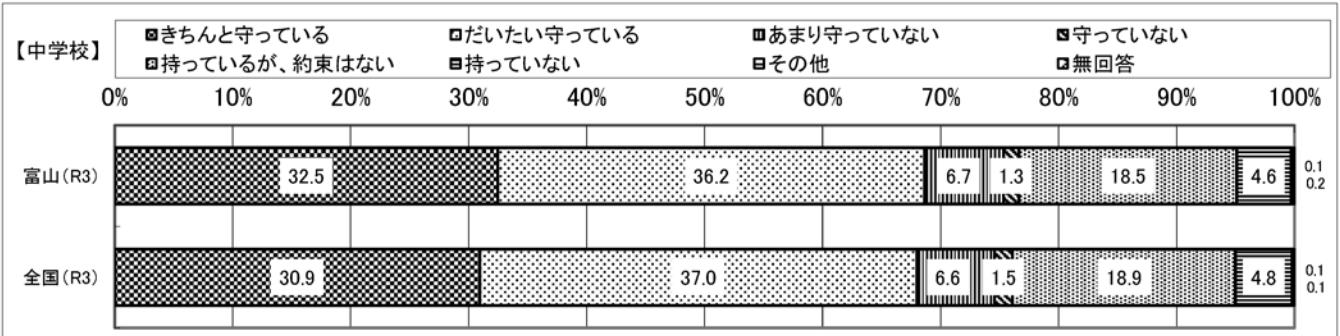
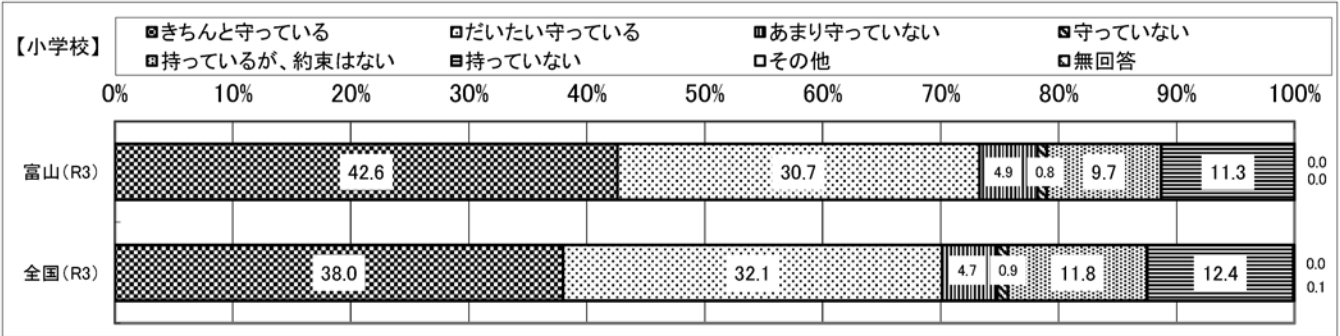


児童・生徒質問紙調査結果と平均正答率とのクロス集計(令和3年度)

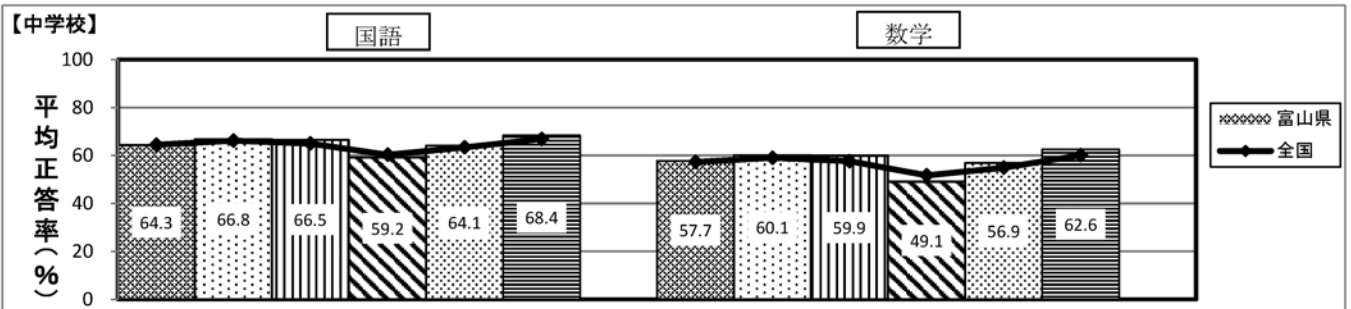
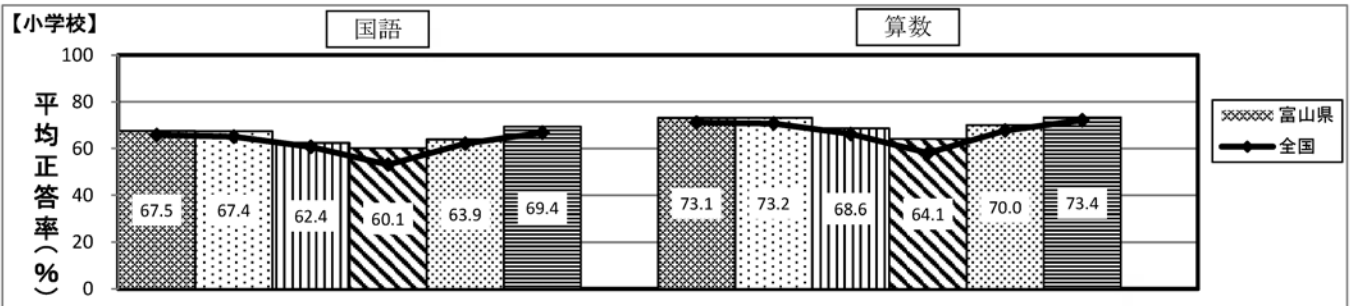


(4) 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか（質問小中4）

・「きちんと守っている」「だいたい守っている」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて小学校では高く、中学校では同程度である。「守っていない」「あまり守っていない」と回答した児童生徒ほど、各教科の平均正答率が低い傾向が見られた。
 ◎約束を守る、または、約束がなくても自分で生活時間をコントロールできる力を身に付けることは大切であり、学校生活の様々な場で指導していく必要がある。



児童・生徒質問紙調査結果と平均正答率とのクロス集計(令和3年度)

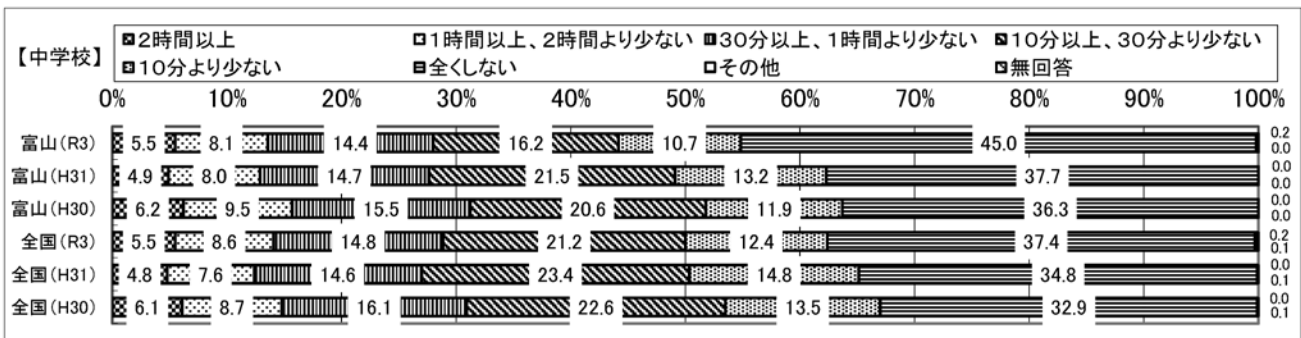
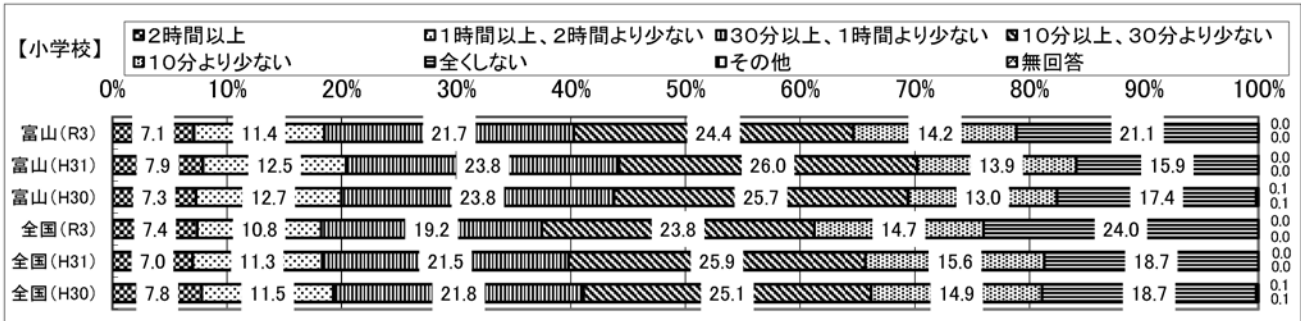


きちんと守っている
 だいたい守っている
 あまり守っていない
 守っていない
 持っているが、約束はない
 持っていない

(5) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます）（質問小中21）

・「30分以上」と回答した児童生徒の割合は、平成31年度より小学校は4.0ポイント減少しており、中学校は0.4ポイント増加している。

◎読書は、言語能力を向上させる重要な活動の一つであり、読書活動の充実が求められる。

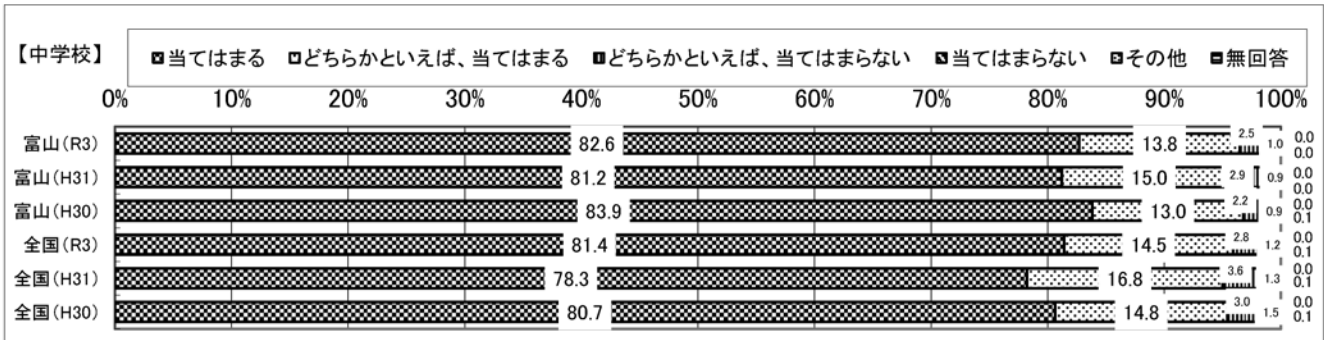
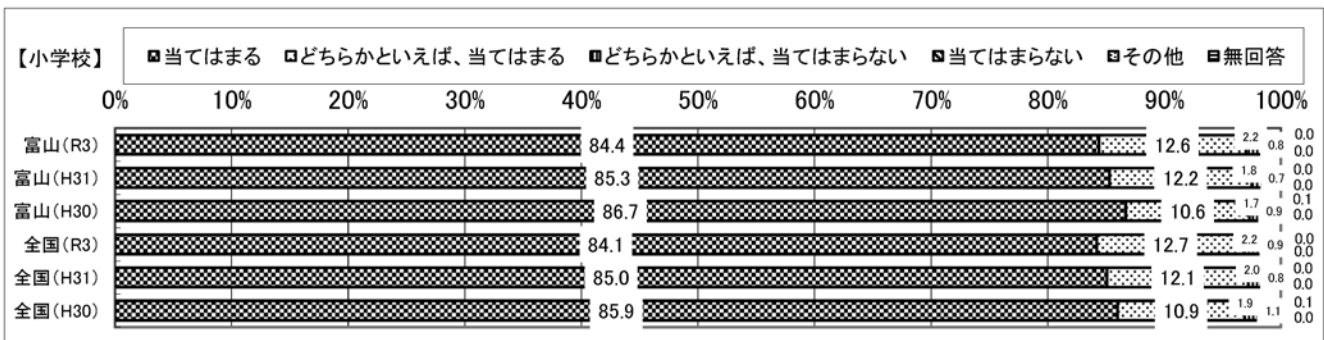


3 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等

(1) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う（質問小中11）

・「当てはまる」「どちらかといえば、思う」と回答した児童生徒の割合は、全国と同程度である。

◎今後も、教師自身が高い人権意識をもち、児童生徒と共に人権の大切さについて考え、一人一人の考えや思い、行動には違いがあることを認め合える集団づくりに努め、他を思いやる心を育てることが大切である。



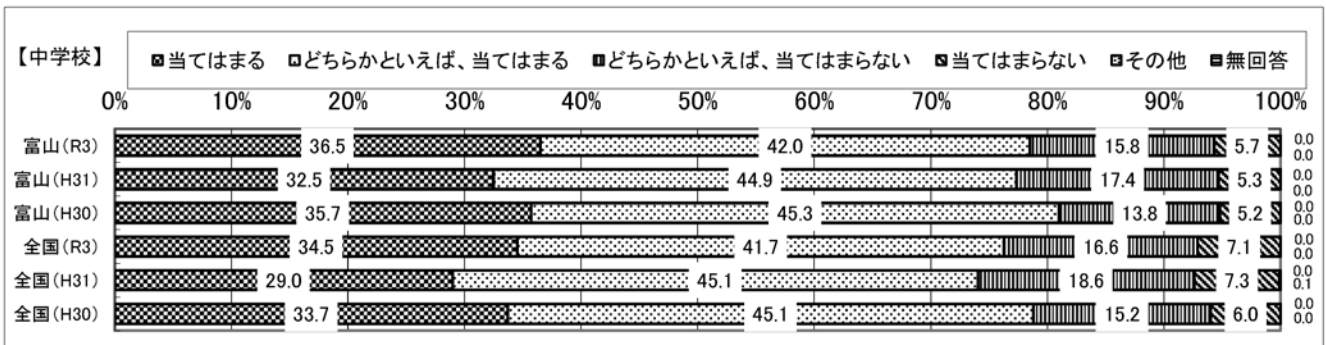
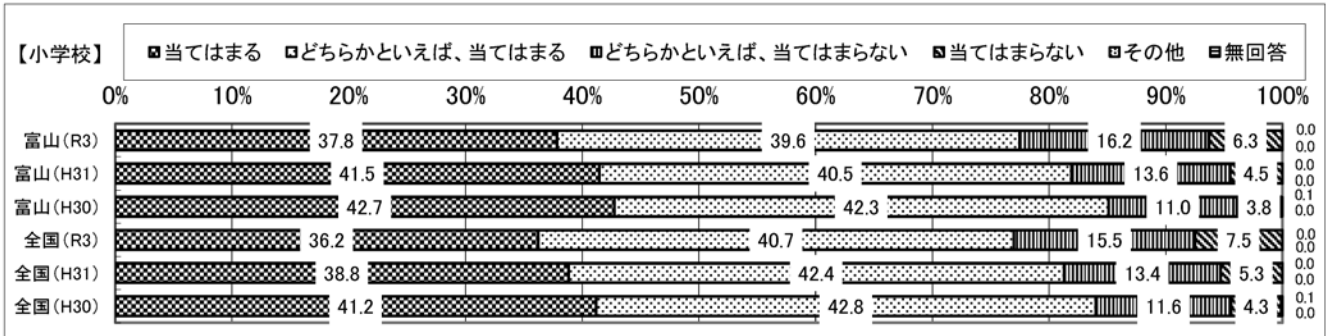
(2) 自分には、よいところがあると思いますか（質問小中6）

(3) 将来の夢や目標を持っていますか（質問小中7）

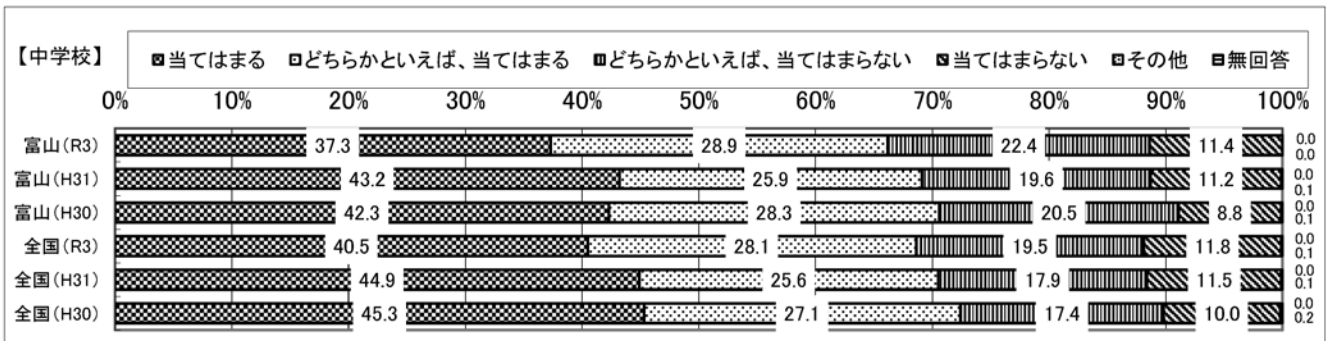
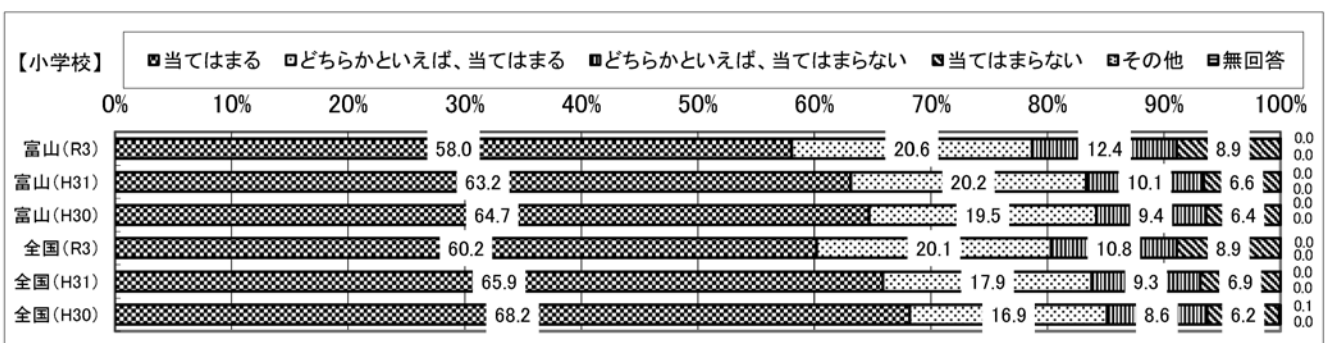
・「自分には、よいところがあると思う」「どちらかといえば、思う」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて小学校では同程度、中学校ではやや高い。「将来の夢や目標を持っている」「どちらかといえば、持っている」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べてやや低く、平成31年度より小学校で4.8ポイント、中学校で2.9ポイント減少している。

◎日頃から子供の目標に向かって取り組む姿勢や努力の過程を認め励ますとともに、将来への見通しをもち、自己実現を図ることができるよう、キャリア教育を一層充実させる必要がある。

自分には、よいところがあると思いますか（質問小中6）



将来の夢や目標を持っていますか（質問小中7）

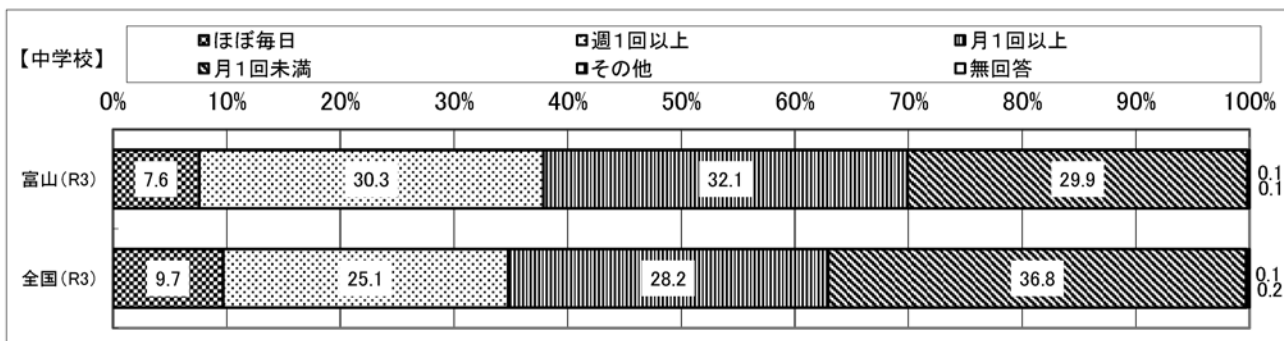
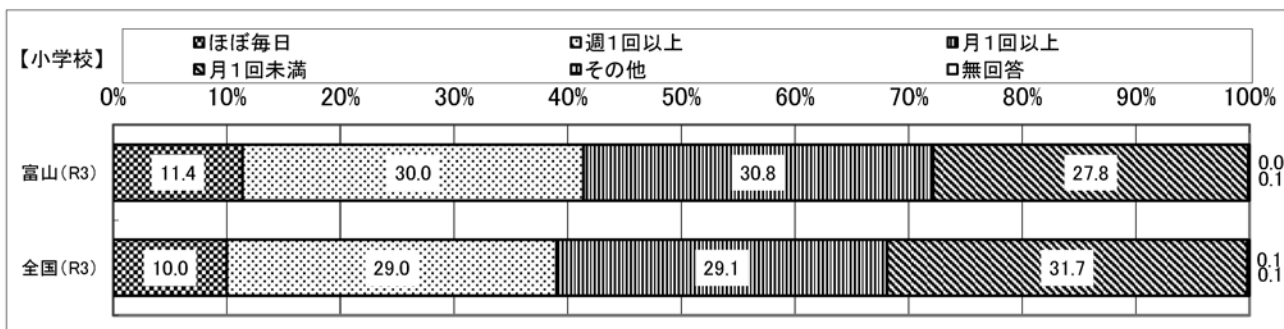


4 ICTを活用した学習状況等

・ICT機器の具体的な活用場面を示し、その頻度を問う質問が新設された。ICT機器の使用頻度については、「ほぼ毎日」「週1回以上」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて小学校ではやや高く、中学校では高い。「ICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」「どちらかといえば、役に立つ」と回答した児童生徒の割合は、全国と同程度である。

◎情報活用能力の育成を図るため、ICT機器を活用するために必要な環境を整え、適切に活用した学習活動の充実を図ることが求められる。

(1) あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達（生徒）と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか（質問小中27）



(2) 学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか（質問小中28）

